



使用する前に

- [アクセス \(Access\)](#) , 1 ページ
- [サーバ証明書のインストール](#) , 3 ページ
- [Serviceability のインターフェイス](#) , 6 ページ

アクセス (Access)

複数の方法で Serviceability アプリケーションにアクセスできます。

- ブラウザのウィンドウに `https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/ccmservice/` と入力し、続いて有効なユーザ名とパスワードを入力します。
- Cisco Unified Communications Manager Administration のコンソールの [ナビゲーション (Navigation)] メニューで、[Cisco Unified Serviceability] を選択します。
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Unified RTMT) メニューで [アプリケーション (Application)] > [Serviceability Webページ (Serviceability Webpage)] を選択し、続いて有効なユーザ名とパスワードを入力します。
- Cisco Unity Connection の [ナビゲーション (Navigation)] メニューで [Cisco Unified Serviceability] を選択します。
- Cisco IM and Presence Administration の [ナビゲーション (Navigation)] メニューで [Cisco Unified Serviceability] を選択します。



ヒント

Cisco Unified Serviceability にログインした後は、[ナビゲーション (Navigation)] メニューに表示されるすべての管理アプリケーションに再度ログインせずにアクセスできます。ただし Cisco Unified OS Administration と Disaster Recovery System は除きます。Cisco Unified Serviceability からアクセスできる Web ページは、割り当てられているロールと権限によって異なります。Cisco Unified OS Administration と Disaster Recovery System には、別の認証手順が必要になります。

このシステムは、Web アプリケーションへのアクセスをユーザに許可する前に、Cisco Tomcat サービスを使用してユーザを認証します。



ヒント Cisco Unified Communications Manager のみ：“Standard CCM Admin Users” ロールが割り当てられているユーザは、Cisco Unified Serviceability にアクセスできます。このロールをユーザに割り当てる方法については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。



ヒント Cisco Unity Connection のみ：System Administrator のロールまたは Technician のロールが割り当てられているユーザが、Cisco Unified Serviceability にアクセスできます。このロールをユーザに割り当てる方法については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

サイトが信頼されていないというセキュリティの警告が表示された場合、これはサーバ証明書がまだダウンロードされていないことを示しています。

Cisco Unified Serviceability にアクセスするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 サポートされているブラウザで、Cisco Unified Serviceability サービスが実行されているサーバを参照します。

ヒント サポートされているブラウザで、`https://<サーバ名または IP アドレス>:8443/ccmservice/` と入力します。ここでサーバ名または IP アドレスは、Cisco Unified Serviceability サービスが実行されているサーバのもので、8443 は HTTPS のポート番号です。

ヒント ブラウザに `http://<サーバ名または IP アドレス>:8080` と入力すると、HTTP が使用されます。HTTP ではポート番号 8080 を使用します。

(注) システムから証明書についてのプロンプトが表示された場合は、サーバ証明書のインストールに関するトピックを参照してください。

ステップ 2 有効なユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。ユーザ名とパスワードをクリアするには、[リセット (Reset)] をクリックします。

Cisco Unified Serviceability にログインすると、各ユーザの最後に成功したシステム ログインと最後に失敗したシステム ログインが、ユーザ ID、日時、IP アドレスとともに、メイン [Cisco Unified Serviceability] ウィンドウに表示されます。

関連トピック

[サーバ証明書のインストール](#), (3 ページ)

Cisco Unified IM and Presence Serviceability へのアクセス

Cisco Unified IM and Presence Serviceability にサインインすると、[Navigation (ナビゲーション)] リストボックスに表示される各アプリケーションにサインインしなくても、すべてのアプリケーションにアクセスできるようになります。リストボックスから必要なアプリケーションを選択し、[移動 (Go)] を選択します。

はじめる前に

[ナビゲーション (Navigation)] リストボックスに表示されるいずれかのアプリケーション (Cisco Unified IM and Presence OS Administration または IM and Presence Disaster Recovery System 以外) にサインイン済みである場合は、サインインしなくても Cisco Unified IM and Presence Serviceability にアクセスできます。[ナビゲーション (Navigation)] リストボックスから Cisco Unified IM and Presence Serviceability を選択し、[移動 (Go)] を選択します。

手順

- ステップ 1 `https://<server name or IP address>` と入力します。<server name or IP address> は、Cisco Unified IM and Presence Serviceability サービスが動作しているサーバです。
- ステップ 2 Unified Communications Manager IM and Presence Administration にサインインします。
- ステップ 3 証明書の入力を求められたら、HTTPS を有効にして、ブラウザクライアントと Web サーバ間の通信を保護する必要があります。
- ステップ 4 ユーザとパスワードの入力を求められる場合は、インストール時に指定したアプリケーション ユーザ名とアプリケーション ユーザパスワードを入力します。
- ステップ 5 Unified Communications Manager IM and Presence Administration が表示されたら、メインウィンドウの右上隅にあるメニューから [ナビゲーション (Navigation)] > Cisco Unified IM and Presence Serviceability を選択します。

Cisco Unified IM and Presence Serviceability にログインすると、各ユーザの最後に成功したシステムログインと最後に失敗したシステムログインが、ユーザ ID、日時、IP アドレスとともに、[Cisco Unified IM and Presence Serviceability] ウィンドウに表示されます。

サーバ証明書のインストール



(注) Cisco Unified Communications Manager での HTTPS の使用に関する詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。

Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer (SSL) は、ブラウザクライアントと Tomcat Web サーバとの間の通信を安全に保護し、証明書および公開キーを使用してインターネット経由で転送されるデータを暗号化します。HTTPS は、サーバが正しいものであることを保障し、Cisco

Unified Serviceability などのアプリケーションをサポートします。また、ユーザのログインパスワードも HTTPS によって Web 経由で安全に転送されるようになります。



(注) ブラウザの証明書とサーバ証明書は完全に一致する必要があります。



(注) Internet Explorer 7 では、証明書の処理方法が原因で、サーバ証明書をインポートするとブラウザにエラー ステータスが表示されます。このステータスは、URL の再入力、ブラウザの更新または再起動を行った場合にも残りますが、エラーは表示されなくなります。詳細については、[Internet Explorer 7 の証明書のインストール](#)、(5 ページ) を参照してください。

HTTPS

Cisco Unified Serviceability に初めてアクセスしようとする時、[セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されます。これは、サーバ証明書が信頼できるフォルダにないため、サーバが信頼されていないことを示しています。ダイアログボックスが表示されたら、次のいずれかのタスクを実行します。

- [はい (Yes)] をクリックすると、現在の Web セッションの間だけ証明書を信頼することになります。現在のセッションの間だけ証明書を信頼する場合は、アプリケーションにアクセスするごとに [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されます。つまり、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまでこのダイアログボックスが表示されることになります。
- [証明書の表示 (View Certificate)] > [証明書のインストール (Install Certificate)] をクリックして、証明書のインストールのタスクを実行し、証明書を常に信頼することを示します。証明書を信頼できるフォルダにインストールすると、Web アプリケーションにアクセスするごとに [セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されることはなくなります。
- [いいえ (No)] をクリックすると、操作がキャンセルされます。認証が行われられないため、Web アプリケーションにアクセスできません。



(注) 証明書はホスト名を使用して発行されます。IP アドレスを使用して Web アプリケーションにアクセスしようとする時、証明書がインストールされていても、[セキュリティの警告 (Security Alert)] ダイアログボックスが表示されます。

Internet Explorer 7 の証明書のインストール

Internet Explorer 7 では、Web サイト アクセスのための Cisco 証明書のブラウザによる処理方法を変更するセキュリティ機能が追加されています。シスコは Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection サーバ用の自己署名証明書を提供するため、Internet Explorer 7 では信頼ストアにサーバの証明書が含まれている場合でも Cisco Unified Communications Manager Administration または Cisco Unity Connection Web の Web サイトに信頼できないというフラグを立て、証明書エラーとします。



(注) Internet Explorer 7 は Windows Vista の機能ですが、Windows XP Service Pack 2 (SP2)、Windows XP Professional x64 Edition、Windows Server 2003 Service Pack 1 (SP1) でも動作します。IE で Java 関連のブラウザをサポートできるよう、Java Runtime Environment (JRE) が必要です。

ブラウザを再起動するたびに証明書をリロードしなくても安全なアクセスが行えるよう、Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection の証明書を Internet Explorer 7 にインポートしてください。Web サイトで証明書に対する警告が表示され、証明書が信頼ストアにない場合、Internet Explorer 7 は現在のセッションの間だけ証明書を記憶します。

サーバ証明書をダウンロードした後も、Internet Explorer 7 ではその Web サイトに対する証明書エラーが引き続き表示されます。このセキュリティの警告は、ブラウザの信頼ルート認証局の信頼できるストアにインポートされた証明書が含まれている場合には無視できます。

次の手順では、Internet Explorer 7 のルート証明書の信頼ストアに Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection の証明書をインポートする方法について説明します。

手順

- ステップ 1** ブラウザにホスト名（サーバ名）または IP アドレスを入力して、Tomcat サーバのアプリケーションにアクセスします。
ブラウザに「証明書エラー：ナビゲーションがブロックされました（Certificate Error: Navigation Blocked）」というメッセージが表示されます。これはこの Web サイトは信頼できないことを示しています。
- ステップ 2** サーバにアクセスするには、[この Web サイトへのアクセスを続行(推奨しません) (Continue to this website (not recommended))] をクリックします。
管理ウィンドウが表示され、ブラウザにアドレスバーと証明書のエラーのステータスが赤色で表示されます。
- ステップ 3** サーバ証明書をインポートするには、[証明書エラー (Certificate Error)] ステータス ボックスをクリックして、ステータス レポートを表示します。レポートの [証明書の表示 (View Certificates)] リンクをクリックします。
- ステップ 4** 証明書の詳細を確認します。

[認証パス (Certification Path)] タブに、「このCAルート証明書は信頼ルート証明機関ストアにないため信頼できません。(This CA Root certificate is not trusted because it is not in the Trusted Root Certification Authorities store.) 」と表示されます。

- ステップ 5** [証明書 (Certificate)] ウィンドウで [一般 (General)] タブを選択し、[証明書のインストール (Install Certificate)] をクリックします。
証明書のインポート ウィザードが起動します。
- ステップ 6** ウィザードを起動するには、[次へ (Next)] をクリックします。
[証明書ストア (Certificate Store)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** [自動 (Automatic)] オプションが選択されていることを確認します。これを選択すると、ウィザードでこの証明書タイプの証明書ストアを選択できるようになります。[次へ (Next)] をクリックしてください。
- ステップ 8** 設定を確認し、[終了 (Finish)] をクリックします。
インポート操作に対してセキュリティ警告が表示されます。
- ステップ 9** 証明書をインストールするには、[はい (Yes)] をクリックします。
インポート ウィザードに「インポートが成功しました。(The import was successful.) 」と表示されます。
- ステップ 10** [OK] をクリックします。[証明書の表示 (View Certificates)] リンクを次にクリックしたときには、[証明書 (Certificate)] ウィンドウの [認証パス (Certification Path)] タブに「この証明書は問題ありません。(This certificate is OK.) 」と表示されます。
- ステップ 11** 信頼ストアにインポートした証明書が含まれていることを確認するには、Internet Explorer のツールバーの [ツール (Tools)] > [インターネットオプション (Internet Options)] をクリックして、[コンテンツ (Content)] タブを選択します。[証明書 (Certificates)] をクリックして、[信頼されたルート証明機関 (Trusted Root Certifications Authorities)] タブを選択します。インポートした証明書が見つかるまでリストをスクロールします。
証明書のインポート後、ブラウザには引き続きアドレスバーと証明書エラーのステータスが赤色で表示されます。このステータスは、ホスト名またはIPアドレスを入力したり、ブラウザを更新または再起動した場合でも表示されます。

Serviceability のインターフェイス

Cisco Unified Serviceability でトラブルシューティングとサービス関連のタスクを実行するのに加えて、次のタスクを実行できます。

- Cisco Unified Communications Manager のみ：展開した Unified Communications Manager ダイアログプラン設定のテストと診断を行い、テスト結果を分析し、ダイヤルプランの調整のために結果を使用するために Dialed Number Analyzer にアクセスするには、[ツール (Tools)] > [サービスの開始 (Service Activation)] を選択し、[ツール (Tools)] > [Dialed Number Analyzer] を選択して Cisco Dialed Number Analyzer サービスをアクティブ化します。

- [ツール (Tools)] > [サービスの開始 (Service Activation)] を選択し、[ツール (Tools)] > [Dialed Number Analyzerサーバ (Dialed Number Analyzer server)] を選択して Cisco Dialed Number Analyzer サービスとともに Cisco Dialed Number Analyzer Server サービスをアクティブ化する必要があります。このサービスは、Cisco Dialed Number Analyzer サービス専用のノードでのみアクティブにする必要があります。

Dialed Number Analyzer の使用方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer Guide*』を参照してください。

- Unified Communications Manager のみ : [ツール (Tools)] > [CDR Analysis and Reporting] から Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting にアクセスするには、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』に説明されている必要な手順を実行する必要があります。



(注) Cisco CAR 管理者ユーザ グループのメンバーでなければ、Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting ツールにアクセスできません。Cisco CAR 管理者ユーザ グループのメンバーになる方法については、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「Configuring the CDR Analysis and Reporting Tool」の章を参照してください。

- 単一のウィンドウでドキュメントを表示するには、Cisco Unified Serviceability の [ヘルプ (Help)] > [このページ (This Page)] を選択します。
- このリリースで利用可能なドキュメントのリストを表示するには (またはオンラインヘルプのインデックスにアクセスするには) 、Cisco Unified Serviceability の [ヘルプ (Help)] > [目次 (Contents)] を選択します。
- サーバ上で実行されている Cisco Unified Serviceability のバージョンを確認するには、[ヘルプ (Help)] > [概要 (About)] を選択するか、ウィンドウの右上隅にある [概要 (About)] リンクをクリックします。
- 設定ウィンドウから Cisco Unified Serviceability のホームページに直接移動するには、ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン リストボックスから [Cisco Unified Serviceability] を選択します。



(注) 状況によっては、Cisco Unified OS Administration から Cisco Unified Serviceability にアクセスできない場合があります。「ロード中です、お待ちください」というメッセージがいつまでも表示されます。リダイレクトが失敗した場合は、Cisco Unified OS Administration からログアウトして、[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン リストボックスから [Cisco Unified Serviceability] を選択し、Cisco Unified Serviceability にログインします。

- 設定ウィンドウから Cisco Unified IM and Presence Serviceability のホームページに直接移動するには、ウィンドウの右上にある [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン リストボックスから [Cisco Unified IM and Presence Serviceability] を選択します。

- 他のアプリケーションの GUI にアクセスするには、ウィンドウの右上にある [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンリスト ボックスからアプリケーションを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Cisco Unified Serviceability からログアウトするには、[Cisco Unified Serviceability] ウィンドウの右上の [ログアウト (Logout)] リンクをクリックします。
- 各 Cisco Unified Serviceability 設定ウィンドウには、ウィンドウの下部にある設定ボタンに対応する設定アイコンが表示されます。たとえば、[保存 (Save)] アイコンまたは [保存 (Save)] ボタンをクリックして作業を完了することができます。



ヒント

Cisco Unified Serviceability はブラウザのボタンをサポートしていません。設定作業を行うときは、[戻る (Back)] ボタンなどのブラウザ ボタンを使用しないでください。














ヒント

Cisco Unified Serviceability のユーザ インターフェイスでは、セッションのアイドル状態が 30 分を超えた場合、セッションがタイムアウトしたことを示すメッセージが表示されてログインウィンドウにリダイレクトされる前に、変更を行うことができます。ここで行った変更は、場合によっては、再度ログインした後で再び実行する必要があります。この現象は、アラーム、トレース、サービスの開始、コントロールセンター、および SNMP の各ウィンドウで発生します。セッションのアイドル状態が 30 分を超えたことがわかっている場合は、ユーザ インターフェイス内で変更を行う前に、[ログアウト (Logout)] ボタンを使用してログアウトしてください。

Cisco Unified Serviceability のアイコン

表 1 : Cisco Unified Serviceability のアイコン

アイコン	目的
	新しい設定を追加します
	操作をキャンセルします
	指定した設定をクリアします
	選択した設定を削除します
	設定のオンライン ヘルプを表示します
	ウィンドウを更新して最新の設定を表示します

アイコン	目的
	選択したサービスをリスタートします
	入力した情報を保存します
	デフォルト設定に設定します
	選択したサービスを開始します
	選択したサービスを停止します

